

報告書（案）に対する主な意見及び対応

1 全般

- ・全般的に結論のみを整理し記載されており、その結論に至る過程や根拠の部分が割愛されている。そのため、会議に出席した我々には理解できる内容だが、今後この会議の結論について、会議に出席していない人達にも、報告書だけでも理解できるよう、前提となる根拠等を加筆し、丁寧な記載した方がよいと思う。

（対応）ご指摘を踏まえ、会議で用いたデータ、グラフ、写真等を加えるなど、全体的に加筆・見直しを行いました。

2 各論

(1) 必要となる墓の数について（P2～4）

- ・第2回会議でも意見が出たが、墓の必要数について、各種取り組みの成果等いくつかの推計が組み合わさったものとなっている。この数値は議論を進める上では大切なものであるが、様々な影響をうけ変動しやすいものである。数値は独り歩きすることもあるため、最終の報告書に記載することがふさわしいか、再度検討してほしい。

（対応）ご指摘を踏まえ、取り組みの成果等、推計に推計が組み合わせて算出している墓の必要数については詳細な数字を削除し、報告書に記載する数値としては、その基礎である市全体として大阪府方式によると約2万の墓が必要という記載にとどめるよう修正しました。ご協議いただきました取り組み成果等の数値につきましては、実際の整備を行う際に活用してまいります。

(2) 無縁墓対策について（P8、P9）

- ・無縁墓・無縁改葬の定義付けを明確にすることを留意点に加えた方がよい

（対応）留意点に定義の明確化、対応手順をまとめることを追記するとともに、無縁改葬とはについて追記しました

(3) その他について（P10）

- ・「現在、行われている社会福祉法の改正を踏まえ」という記載は、市営墓園墓地の報告書としては踏み込み過ぎているのではないか。

（対応）ご指摘を踏まえ文章を修正しました。

- ・墓の歴史については以下のとおり

「葬ってもらえない時代」・・・「もらえない」は価値判断が入っており適切ではない
「墓石を立てる」・・・江戸時代中期
「家の墓」・・・明治期

（対応）ご指摘を踏まえ、歴史の部分を修正しました。

- ・「公共資産や予算など社会的ソース・・・」について、文章をもう少し明確化すべき。

（対応）ご指摘を踏まえ文章を修正するとともに、記載順を変更し、その他部分の総論的な記載として修正しました。